



特定非営利活動法人 地域生活サポートセンターじゅぶ 通信

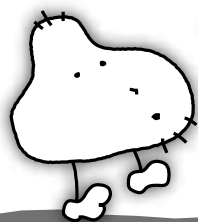
ぬぷぼん

特定非営利活動法人 地域生活サポートセンターじゅぶ 通信 「ぬぷぼん」 第6号

2007年3月



**夢創舎さんと合併します！
法人名称が「りあん」に変わります！**



2007.3 第6号

くらしの 掲示板

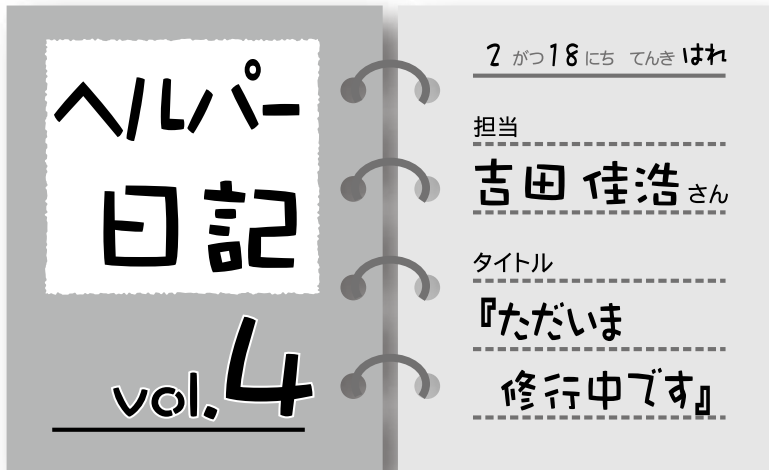
みなさんこんにちは。昨年からの制度の改正により、今まで国の制度だったガイドヘルプなどが市町村の事業にかわるなど、障害福祉サービスにおける地域の担う役割が大きくなっていきます。今後、地域ごとに特色を持ったサービスがどんどん生まれていくことを期待しています。

そこで、現在じゅぶの周辺の市町村で行われている市町村独自の事業を紹介しようと思います。調べてみると、意外に知らなかったサービスがたくさんで楽しいですよ☆これはあくまでも一例ですので、気になる方は、お住まいの市町村にお問い合わせください。

また、栗東市の福祉の手引きには携帯電話の割引サービスも載っていました。今や生活の中で欠かせないアイテムとなった携帯電話。その割引サービスも比較して、より自分に合ったサービスを見つけて下さい。
(熊澤・國實)

| 市町村名 | サービス名 | 特徴 |
|------|-------------------|--|
| 大津市 | 在宅重度障害者訪問入浴サービス | 訪問入浴サービスは1回当たり500円で利用できる。移動支援の中に複数人での外出支援を自己負担なしで利用できる。 |
| | 日中一時支援事業 | |
| | グループ支援 | |
| 草津市 | 障害者訪問入浴サービス事業 | 障害者ふとんクリーンサービスは、寝たきり等の状態にある身体障害者を対象とした事業で、事前登録をすれば、月1回の寝具の乾燥と年2回の水洗いのサービスを受けることができる。 |
| | 障害者ふとんクリーンサービス事業 | |
| | 福祉理髪サービス事業 | |
| | 日中一時支援事業 | |
| 栗東市 | 重度身体障害者訪問入浴サービス事業 | 障害福祉のてびきは、くりちゃんなどのイラストも多く大変見やすい。また、給食サービスは、一人暮らしの重度障害者等を対象にしており、週に1回、手作りのお弁当を1食100円で届けてもらえる。 |
| | 日中一時支援事業 | |
| | 給食サービス | |
| 守山市 | 重度身体障害者の入浴サービス | 在宅の重度身体障害者が家庭内での入浴が困難な場合、申請するとデイサービスセンターで入浴することができる(1回500円)。 |
| 野洲市 | 在宅重度障害者(児)介護激励金事業 | 在宅の重度障害者を常時介護する人に対して、30,000円/年が支給される。 |

| 電話会社 | NTT Do Co Mo | au | SoftBank |
|--------|--|---|---|
| 対象サービス | ハートイ割引(ふれあい割引) | スマイルハート割引 | ハートフレンド割引 |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> 基本料金 :50%割引 無料通信料はそのまま) 全料金プラン(FOMAユビキタスプランを除く)、パケットの一部料金プラン(デュアルサービスのライトプランのみ) 各種サービス基本使用料 :50%割引 iモード、留守番電話サービス、デュアルネットワークサービス 各種手数料無料 新規契約、電話機変更、movaからFOMAまたはFOMAからmovaへの契約変更など | <ul style="list-style-type: none"> 1年間継続利用の契約をすることにより、以下の割引が適用さ 基本使用料 :50%割引 au携帯電話 一般電話への通話料 :50%割引 他社携帯電話 PHSへの通話料 :20%割引 Cメール送信料 :50%割引 | <ul style="list-style-type: none"> 基本使用料 :半額 無料通信はそのまま) 契約事務手数料などの一部が無料 |
| 割引対象者 | 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかの交付を受けている方。 ご利用にあたっては、お申し込みが必要です。割引対象となるのは、1人1回線のみ。 | 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかの交付を受けている方。 ご利用にあたっては、お申し込みが必要です。割引対象となるのは、1人1回線のみ。 | 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかの交付を受けている方。 |



こんにちは!今回ヘルパー日記を書かせていただきます吉田です。

でも、利用者さんと関らせてもらってまだ半年ちょっとしかたっていない新米ヘルパーなのに、ほんとに僕が書きちゃってもいいんですか~?まあでもOさんが楽しみにしてるみたいだし、書くとするか(笑)冗談はこのくらいにしといてっど…

ヘルパーをさせてもらって半年がたちましたが、ヘルパーを始めたばかりの頃は何を援助すればいいのか、僕に何が求められているかがわからなくて、ヘルプに行く度に右往左往してばかりでした。トイレ介助、ガイドヘルプ、家事援助など…いろんな形のヘルプがあり、利用者さんごとにニーズが違い、考え方も違う。そして、大学で理論を勉強していても実際の現場では、その通りには行かない事。ほんとに驚きと戸惑いの連続でした。

そんな僕にいつも利用者さんは優しく僕がしないといけないことや、ヘルプをする時の心構え、慣れたからといって慢心せず、いつまでも初心を忘れないでい

ることの大切さを教えてくれました。だから、僕にとって利用者さんは『先生』なんです。

…あっ!でもOさんは『親父』かな?

制度や現状を教科書や資料で勉強することも大切だけど、自分の目で、耳で、身体で【現実】を知ることがいかに大切であるかという事をヘルパーという仕事で体験させてもらっています。その体験をさせてもらっているのは、頼りになる事務所の方や友人、優しい利用者さんのおかげで……自分で言うのもなんだけど、すっごい恵まれた環境にいるんだなあ……

たくさんの方の支えの中、吉田佳浩20歳、ただいま修行中です!!!!

もしかしたら、どこかで会えるかもしれませんね。たとえば…じゅぶの飲み会とか飲み会とか飲み会とか(笑)

こんな僕ですけど、もしお出会いする事があれば、その時はよろしくお願いします!!

2007年4月

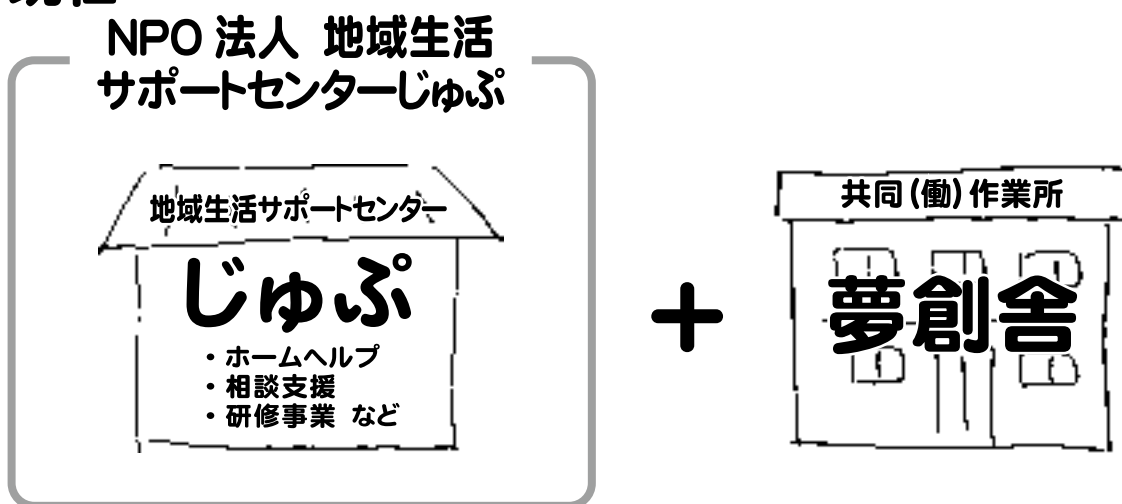
「地域生活サポートセンターじゅぷ」と「夢創舎」が合併します。

これまでから互いに連携・協力し合いながら事業を行って来た両事業所ではありますが、1年ほど前より合併を検討してきました。元々は夢創舎さんから提案を頂いたことがきっかけでしたが、互いに検討し、合併することで合意しました。

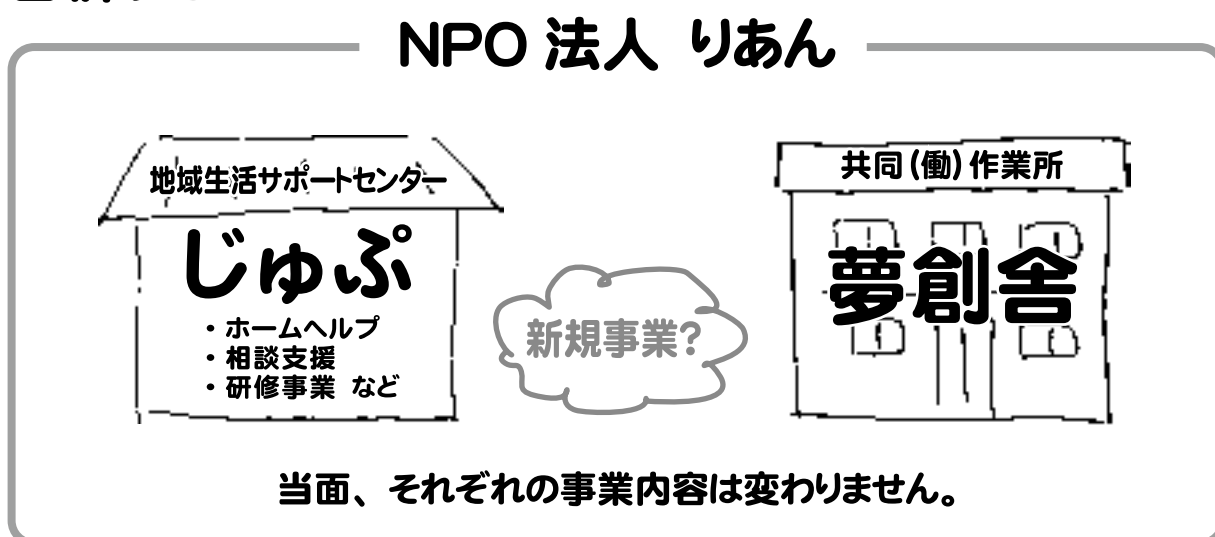
検討する中で「こんなことをやってみたい」という部分で共通する思いを持っていることもわかりました。まだ具体的には言えませんが新規事業も検討しています。

この合併に伴い、法人名を変更します。これまで『地域生活サポートセンターじゅぷ』という特定非営利活動法人が「地域生活サポートセンターじゅぷ」という事業所を運営するカタチでしたが、合併後は混乱を避けるため法人名を新たに『りあん』とします。『りあん』が「地域生活サポートセンターじゅぷ」と「夢創舎」という2つの事業所を運営するということとなります。新生『りあん』そして「じゅぷ」と「夢創舎」を今後ともよろしくお願いします。

☆現在



☆合併すると…

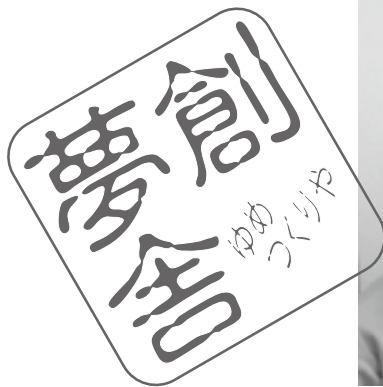


夢創舎って・・・？

「大きくなったら、あんな仕事がしたい。こんなことやってみたい」小さな頃から夢を持っている人は多いと思います。しかし、障害をもつ人は、親や学校が敷いたレールを進む中で自分で考え物事を決める機会や、いろいろな経験をする機会をうしない、夢を持つこともままならない状況です。また夢をもったとしても、障害者をこばむ大きな社会の壁を前にして、それを実現していくすべもありません。

その結果、働きたくても行き場がない人、高校や大学にいてもっといろいろな経験をしたくてもできなかった人、自分が本当にしたい仕事やできる仕事がかんがえない人、そんな障害をもつ人がこの社会の中にはたくさんいると思います。

夢創舎はそんな障害をもつ人達に個々のニーズにあった様々な経験を提供する中で、自立した社会生活を送っていく上で必要な知識を身につけて行くと共に、その人にあった進路を見つけて行ける場作りができるよう活動しています。



『自閉っ子、こういう風にできてます!』

自閉症の翻訳家と作家が今こそ語る独特の身体感覚と世界観
ニキ・リンコ × 藤家寛子 / 著 (花風社)

本の紹介

アスペルガー症候群の2人と、出版社の社長の3人がお話されている内容がまとめられた本です。3人の話でよく出てくるのは、「定型発達とはオートマチック、アスペルガー症候群はマニュアル操作」という表現(この本では、健常者のことを定型発達という表現をしています)。対談しているお二人に言わせると、私たち定型発達の間は楽をしているそうです!そんなこともないのにな…とも思いながら、でも、納得。おもしろいという表現が適切かはわかりませんが、私には発見が多く話もおもしろくて、本の世界に吸い寄せられていきました。そして、ますますアスペルガー症候群をはじめとする自閉症スペクトラムの人に興味・関心を持つようになりました。(ざね)



研修報告

内部研修「応急手当とAED」

2006.10.21(土)

昨年の10月21日(日)に「じゅぷ」の登録ヘルパーを対象に研修会を開催しました。このようなヘルパー対象に研修を開催するのは一昨年に続き3回目になります。秋のイベントシーズンの真っ只中にも関わらず、スタッフを含め総勢16名のご参加をいただきました。ありがとうございました。

みなさん一度はAEDという言葉をお聞きしたことがあるのではないのでしょうか?今回の研修は、そのAEDと呼ばれる機器の実技を含めた研修を消防署の協力をいただきまして、開催させていただきました。AEDとはAutomated External Defibrillatorの略で日本語では自動体外式除細動器(じどうたいがいしきじょさいどうき)と言います。AEDは簡単に言うと、心臓の突然停止の際に電気ショックを与え、心臓の働きを戻すことを試みる医療機器です。日本ではこれまで AEDを使田でき



るのは医師や救急救命士に限られていましたが、2004年7月から、救命のためであれば一般市民も使えるようになりました。最近では行政機関やスーパーなど人の集まる場所に設置されてくるようになっていきます。

大津市東消防署から2名の救命救急の方をお呼びしまして、実際に機器を触らせていただきました。ひとりずつ順番に機器に触れ、人形相手に実戦さながらの緊張感と大きな声と少しの羞恥心の中、みなさん真剣に取り組んでいただいたように思います。AEDの操作は驚くほど簡単で、音声ガイダンスに従い、電極を傷病者の胸部へ張付け、解析結果に基づいて適報ボタンを押すだけです。操作に高度な専門知識を全く必要としないので、参加者の方々もアドバイスのもと、意外なほどスムーズに操作できたのではないのでしょうか。東消防署の方々(すいませんお名前を忘れてしまいました)、やさしく、適切に指導していただきまして本当にありがとうございました。実際街中でこのような場面に、できれば遭遇したくはないですが、参加者された方々は遭遇しても、もう大丈夫のはず?!

研修終了後はお昼ご飯を食べながら、雑談を含めわいわいと普段みなさんが考えていることをお聞きしたり、現在の障害者福祉の状況を話し合うことができました。このような時間も充実した情報交換の場だったと考えてい

ます。AED研修を含め、約4時間参加された皆様お疲れ様でした。今後も内部研修は必ず開催していきますので、積極的な参加お待ちしております。また、あんな研修してほしい、こんな研修してほしいなどありましたら、事務所まで連絡ください。お待ちしております。

(阿部)

アメニティーネットワークフォーラム

2007.2.2(金)~4(日)

ここ10年、毎年この時期に大津プリンスホテルでおこなわれており、生活支援関連では全国で最大規模の研修です。今年も参加してきました。と言っても今年からフォーラム自体の名称がビミョーに変わったので初参加と言うことになるのかな?いややはり今年"も"で良いでしょう。一昨年まではブースを出していましたが昨年からはフツウの参加者です。

3日間、朝から深夜まで、2会場で同時に別プログラムがおこなわれている、という濃密な内容ですが、私は業務の合間の参加ですので、全体の3分の1くらいの参加でした。そんな中から印象的な言葉を紹介します。

◇「こんなお膳立てしてもらって、なんでできないのか?」

ステージ上で発表される方たちは、各地域で注目されるような実践をされている方達です。彼らはそこに「制度があるから」ではなく「必要だから」事業を始められ、結果あとから制度ができ、それに乗っかる事業となったのでしょうか。もし制度がつけられなかったとしても(必要性がある限り)その事業を続けていたでしょう。今後、制度が崩壊しても続けるでしょう。その一方で、制度の不備ばかりを訴え、それを理由に「こんな事業をしたいが(必要だが)できない。」と言う人も多くいます。そんな人たちに対するステージ上からの言葉です。ホントに何も無いところから始めた人から

すれば、多少の不備はあっても自立支援法を用意してくれているだけで、それはもう立派なお膳立てじゃないかと。毎年感じるのですが、やる人はやるんです、制度があってもなくても。そしてそういう人の話は説得力がある。

自分も時には愚痴っている側かもしれませんが。大津や滋賀にも「地域から創りあげる」風土があります。それを絶やさず、いやあられてためて盛り返していかなば。と再認識しました。◇「こたつに入っていると足がドコにあるのかわからなくなって、立てなくなる。」

いわゆる自閉症と呼ばれている当事者のお話しです。視覚的に捉えるからでしょうか、こたつに入ると自分の足が見えない、で自分の足がどこからどんな風にあったか忘れてしまい思い出すのに時間がかかる。ですって。「なるほど～。しかし、そうか～?でも、実際そうなんやー。」と納得とまではいかないモノの、少し近づけた気がしました。その他、いくつも例を挙げて話して下さったのでわかりやすかったです。興味深い話だったので著書を買いました。本の紹介ページにも載ってます。じゅぷで貸し出しもしています。

◇「関心のない人をどう巻き込むか」

税金から補助金なり事業費を受け事業をやっていくためには、地域の中で福祉に関心のない人たちにどう理解を得るか?ということが重要。当たり前なことだけれども忘れがちかもしれない。例えば地域の福祉計画を立てるときに、自分たちの目線だけで「あれも必要だ!これも必要だ!」と福祉の予算確保ばかり考えてしまうとか…。

地域とのつながり。このあたりはじゅぷの弱い部分かもしれませんが。意識して強化していく必要があります。「地域であたりまえに」を実現するためには欠かせないことです。自分たちの専門性を高めることも大事だけど、それ以上に必要なことなのかもしれません。

(染井)

臨時総会の報告

日時:2006年12月19日(火) 19:00~
がんばカンパニーにて
(出席:9人 委任状出席:5人 計14人)

審議事項

- 第1号議案 法人名称の変更について
本誌4,5面にもあります通り、
合併に伴い名称変更を提案し可決。
- 第2号議案 運営委員の選任について
門脇氏が亡くなられましたので後任
として、太田好信氏を推薦し可決。
北正男氏は立候補され可決。

訃報

当法人、理事でもあった
門脇謙治儀、かねてより
闘病中でありましたが、
2006年9月13日逝去
いたしました。享年47歳で
した。
ここに慎んでお知らせ申し
上げます。

新人紹介



くにざね さとみ
國實 紗登美

2月より常勤ヘルパーとして働いている國實紗登美(くにざねさとみ)です。龍谷大学卒業後、不動産会社で営業の仕事をしていたのですが、退職して仕事を探している時に、縁があって声をかけて頂き、じゅぷで働くことになりました。

私は双子で、よく似ていると言われ、学生時代も知らない人に声をかけられたりしていました!みなさんも、この顔を見かけた時に声をかけてもらっても、もしかしたら双子のもう一人の方ということがあるかもしれません・・・似ているか判定してみてください☆
まだまだ勉強することだらけですが、色々なことにチャレンジし成長していきたいと思っていますので、気づくことがありましたら、ご指導頂けたらと思います。どうぞよろしくお願ひします。

編集後記

- ・ 第5号発行から、なんと、1年もたってしまいました。やっとこさ第6号発行! 昨年は支援費から自立支援法へと法律が変わって、いったいどうなっていくのかわからないまま、流されてきた感じでした。来年度は上限の減額などもあり、もっとも使いやすく、見直されていくことを期待しています。
- ・ 2月から念願の新入社員が加入。紅一点だった2年間を経て、やっと女性2名体制です。私もピリツとした気持ちで、今後はもっともっとサービスの向上を目指していきたいと思っています。よろしくお願ひします。
- ・ 最近、写真をとるのに興味がでてきました。不規則な仕事柄、早朝とか深夜とかに外にいと、星がすごーくきれいだったり、朝焼けのきれいさに感動したりして、心があらわれるようです。今回の表紙にはぜひ私の作品をー! っと思ってたのですが、冬っぼい写真が多いためボツ…。これからは、季節先取りの写真も撮ってきたいです。
(熊澤)